

第9回肝臓病教室

このたび、第9回肝臓病教室が平成24年11月6日に開催されました。今回も19名の受講者にお越しいただきました。今回の肝臓病教室のテーマは、「C型肝炎」です。

まず、田中医師より「C型肝炎—最新の治療—」について講演がなされました。

今回は、主に2011年11月から承認されました、ペグインターフェロン+リバビリン+テラプレビル3剤併用療法について説明されました。3剤併用療法（治療期間24週間）の治療対象者は、ジェノタイプ1型で高ウイルス量の人です。従来の2剤併用療法（治療期間48週間）の治療効果が49.2%であるのに対し、73.0%の治療効果が得られております。

また、以前抗ウイルス療法でウイルスが陰性となったものの、その後陽性となった人が、3剤併用療法により88.1%で陰性化すると結果を得ることが出来ました。

3剤併用療法では発疹、貧血、血中クレアチニン増加などの副作用が生じることもありますが、当院ではチーム医療で対策を講じ、安全で効果的な医療の提供を心掛けております。

続いて、石本薬剤師より「薬物療法について」の講演がなされました。

近年、新しい抗ウイルス薬としてテラプレビル（テラビック錠）が使用されております。服用方法について、テラプレビルは、食後2時間以内に服用することで上手に吸収することができます。また、テラプレビルと一緒に服用出来ない薬として、睡眠薬の一部、コレステロールを下げる薬、不整脈などの薬などがあります。もし、それらのお薬を服用している場合は、主治医にご相談ください。

続いて、勝見医師より「3剤併用療法における皮膚症状について」について講演がなされました。

3剤併用療法における副作用の一つに皮膚症状があります。その特徴として、重症度が比較的高い、発現時期が早い、紅斑の出現、そう痒感などがあります。症状が現れた場合、主治医に相談し、早期治療を受ければ、重症にはなりません。治療を中断せず、最後まで継続していただけますので、早めにご相談ください。

さらに、藤本栄養士から「治療における食事の重要性」の講演がなされました。

まず、3剤併用療法中、テラプレビルは食後、等間隔の内服が望ましいです。空腹時では、血漿中濃度が低下するという報告がありますので、脂質含有のものがよいとのことでした。食欲不振時も栄養状態を確保し、服用を続け、内服時間を等間隔にするためには軽食を取ることも必要になります。軽食をとっても、目標エネルギー（1400～1500kcal）は、大きく変わりません。副作用で食欲減退が出る場合がありますので、軽食で調整を行っていくようにしていくことが大切なのです。

最後に、畑中看護師から「C型慢性肝炎の看護について」の講演がなされました。

3剤併用療法で入院された方につきましては、治療日誌を用い観察フローシートで内服薬の飲み忘れをチェックし、副作用についての観察を記載しております。その他、生活状況を記載することで、副作用を早期に発見し、生活環境を快適に過ごしていただけるよう主治医、医療スタッフでサポートしております。

消化器内科では、定期的にさまざまなテーマで肝臓病教室を開催していく予定です。今後の予定につきましては、院内掲示や当院のホームページでご確認下さい。

